

議論の進め方(イメージ)

各々の意見・課題の表明



意見・課題の整理



ギャップ・課題に対する議論 あるべき姿集約



次のステップへ(会則見直し・体制見直し ほか)

今日はここ

皆さんからの意見

理念

具体的なアクション

課題懸念

お名前	同窓会存在目的(こうありたい こうしたい)	あるべき姿に対する課題
久保田さん	治い構成が望んでいるのは、先輩に職業的なことや社会に出てからの注意事項などを具体的に聞きたい。同窓会に興味を持てる情報の発信 就職相談の受け口 クラブ活動的なものを多く設置して参加意欲を促す	今までのやり方では振り向いてもらえない。後輩の要望に対して受け止められる器がない。
三澤さん	懸望に在籍した関東近県在住の同窓生が母校、同期先輩後輩、あなたの思いを叶える手助をするのが東京同窓会。同窓生が年に一度一堂に会い旧交を温める楽しい場を皆で楽しむ。継続は力なり。30年経ったら同期会をやろうというのが愛のリレー。東京での研修会への支援。	
百瀬さん	親睦の会。就職・転職相談ができる 営業先・取引先等仕事の拡大 趣味OFF会の時間の機会の場。困った時に同郷・同窓の人に相談できる場の提供。	いまある同好会以外の趣味の場の受け皿が必要
小松さん	同じ地元を巣立った人の共通点。兄弟のような感覚が何物にも代えがたい。絆を大事にする→なんでも相談 お互いに助け合い。時代とともにやり方は変わる。新しいやり方を取り入れる必要がある。	
太田さん	年1回の懇親の場があることの大切さ。東京同窓会について実行委員をやるまで知らなかった。その後、同期の集まりが増えた。年一回の懇親の場を守りたい。	
衣袋さん	3年間同じ学び舎で過ごした人との繋がり。年代を超えて交流できるのがこの同窓会。東虹会では、今まで知らなかった人たち同士での交流・語り合いの場ができた。	30年の幹事にならないと集まる機会がない。どう集めるのか
戸田さん	次の世代に同窓会を変えていってほしい	120周年、130周年に向けてどう若手を集めるのか。広報の後継ぎがない 誰も手を挙げてくれない。輪番制のように強制的に指名する方法も要検討。
森本さん	楽しいことを倍にして つまらないことを半分にするのが同窓会の意義。若い人と触れ合えるのが楽しい。	毎年フローになっている(ルーチン?)がストックにしていきたい。
濱田さん	年1回懇親会も大事 それ以上に発展したいのは①現役世代はビジネスチャンス場にしたい。②若者が頼ってくれる存在にしたい。 学生部創設&就職支援をしたらどうか。	若手をどう引き込むのか 考えているけど具体的な案が出ない 大学2年生の木村さんとの連携からいろいろアイデアをもらい取り上げて行きたい
小岩井さん	世代によって求めるものが違う 年を重ねると旧友と会うのが大切に。1つの方向にまとめるのは大変だが、学生部・青年部を作ったり、いろいろな分科会があってもいいのでは。就職どうするの？あの先輩はここにいるよ、などの情報提供の場とする。	卒業～その後のキャリアを積む中で 同窓会と絡む仕組みづくりをしたらどうか。現役の学生の頃からアイデアを組み込んで、幅広い世代が集まって楽しめる場にしたい。
巢山さん	継続は力。第4金曜日にビジネス交流会をしていた。剣道部等クラブのOB会はしていた。受験の時に自宅に泊めたことある。次につなげる為に5年委員会を作った。先輩後輩のつながり 具体化大事 在校生への支援 次はどうつなげるのか	組織的に思いをどう実現するのか。東京同窓会にはこういうのが有るんだよとお知らせする。
松澤さん	30年の幹事まで知らなかった。幹事の時に在校時に話せなかった人たちとの語り合いは良かった。繋がりができた。ビジネス的な交流。世代を超えた交流ができることが良い。サークル的なもので世代を超えて交流。	実行委員会の幹事のメンバーが集まらないと聞いて寂しい
二木	「母校への恩返し」「東京近郊在住メンバーの同窓生同士の交流の場」 ビジネス交流会 (過去実施したが継続しなかった)	松本同窓会との差異化。セミナー会ネタの不足(メリットとなる情報・ネタの不足)
嶋田さん	サークル活動をしたい。学校の枠を超えた活動。 ハイキングサークルを作りたい (作って良いか)	年に2~3回 サークル立ち上げもできる!
伊藤さん	大人の社交クラブ 会社・親戚でもない 別のつながりの場(そこそこいい年になってから) 高卒者を対象にして歓迎会とかやったら良い。他校同窓会との交流も楽しい。	
佐藤さん		若い人の情報が何も入ってこないことが最大の不安。それが出来ないと、下に繋げることができない。それを解決することが必要。 継続性への不安が大きい。
小林さん		いかに同窓会と接触するのか。個人が繋がるには良いが、組織として繋げるにはどうしたらよいか課題。先輩から声を掛けられて参加するようになった。繋がりをどうするかが課題。

整理結果 サマリ

- 理念 → こちらは大きな差異はないように思える
 - 関東近辺に在住する縣陵同窓生の親睦の場
 - 年代を超えての親睦の場
 - 母校への恩返し
- 課題・懸念 → こちらは議論ポイント多数
 - 若手が集まらない 継続性に課題
 - 若手が集まるようなきっかけ、ネタがない
 - 後輩(若手)の声が聞こえない
 - 組織的に思いをどう伝えるか
 - 松本同窓会との差異化
 - 時代とともにやり方は変わるが どう変わればよいのかわからない
 - 今までのやり方では振り向いてもらえない
 - 後輩の要望に対して受け止められる器がない
- 具体的なアクション
 - 課題を解決してから・・・

3/5代表幹事会の議論 振り返り 次のアクション

➔ 次回は、今回の課題を整理して具体的なアクション案について議論する

- ・ 若手と言っても、一番のターゲットは卒業後30年の世代、ここをどう開拓していくか
- ・ 卒後30年後のイベントにどうやって集めるか、そしてどうやって維持していくか
- ・ 集り・維持していくためのネタをどう仕込んでいくか
- ・ 若手を集める為のアクション検討の参考
高尾山ハイキング、山メシ、首都圏近郊日帰りハイキング、燕登山、上高地日帰り旅行等
フェイスブック：我ら縣陵同窓会、松本県ヶ丘高校の友達、覇権会（バレー部）などあり
松本山雅の応援会、東虹会での親子絵画教室・陶芸教室など
- ・ HPに掲載する情報の内容など

- 課題：若手開拓 に向けた2つの方向性
 - ・ 勝手連的に 自主的に集まりを企画・推進
→進めるにあたり 多少の補助なりを出す体系もあってもよいか(会計の余裕があれば)
 - ・ 体系的に、卒業30年世代の開拓
 - ・ 30年間 同窓会に関与できるしくみ
(25年目松本総会幹事以外。例えばタイムカプセル)
 - ・ 松本との連携
 - ・ 母校との関わり—生徒訪問先企業リストを含む
(結局同窓会は 母校あつてのもの)
 - ・ 若手にも役割を与える。但し重たくなりすぎないように
- 次の議論
 - ・ 課題を解決していくための組織 現行組織・予算でよいのか
 - ・ 6年委員会の強化 レディースとの連携 統合
 - ・ 活動にあたっての予算確保可否
 - ・ 議論した以外の課題の整理 会則等の見直しとの整合
 - ・ 会則・運営細則の具体的な変更案の作成
 - ➔ 9月or10月の代表幹事会で具体的内容の検討
 - ➔ 12月or1月の代表幹事会で最終決定